

令和4年度第4回 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日 時

令和5年3月8日（水） 午後1時30分から午後2時30分まで

II 場 所

徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】20名中16名出席

高原清秀会長、伊藤典文委員、市橋有里委員（リモート）、
大阪沙都委員（リモート）岡部裕子委員（リモート）、
幸田貴美子委員（リモート）、小谷敏弘委員、佐藤充宏委員、土岡美紀委員、
靄真美委員（リモート）、富山潤一委員、中田恵莉子委員（リモート）、
永原レキ委員（リモート）、村上亜弥子委員、村山慎之助委員、
米本元子委員（リモート）

【事務局】未来創生文化部次長、スポーツ振興課長、ダイバーシティ推進課長
体育健康安全課班長、西部総合県民局地域創生観光部課長ほか

IV 内 容

開会

議事

- （1）令和5年度スポーツ関連施策の状況について
- （2）徳島県スポーツ推進計画の進捗状況について

閉会

＜配付資料＞

- | | |
|------------------------|-----|
| ○ 令和5年度スポーツ関連施策について | 資料1 |
| ○ 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況について | 資料2 |

V 議事録

開会

☆会長

本日の審議会は1時間を目処に終了予定としておりますので、よろしくお願いたします。

また、議事に移ります前に、本日お配りしております「第3期 徳島県スポーツ推進計画」について御報告いたします。前回、11月11日の審議会で答申案についてご了承いただき、若干の文言修正のあと、11月18日に私から知事へ答申を行いました。その後、事務局において12月に計画策定となっております。4月からはこの計画に沿って県のスポーツ施策が進んでいくよう当審議会としてもサポートしていきたいと思っておりますので、御協力よろしく願いいたします。

それでは議事に移りたいと思います。まず、事務局より「議事1 令和5年度スポーツ関連施策の状況について」「議事2 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況について」併せて説明をお願いします。

◆事務局

資料1、2に基づき説明

☆会長

ただ今事務局より議事1、議事2を併せて御説明がありました。このことにつきまして、御質問、御意見をお受けしたいと思います。この機会ですので、ぜひ積極的な御発言をお願いいたします。今日は時間が限られていますので、これまではできるだけ全員の方に御発言いただくということで会を進めてきたんですけども、ぜひ挙手の上、積極的な御発言をお願いいたします。

○委員

質問があります。まずは資料1の質問になるのですが、6ページ目の「3-18 徳島・にし阿波パラスポーツ推進事業」について、何年間かされていると思うのですが、いつ頃から始められたのかということと、あとは「にし阿波」はそういうふうに活動が多い印象があるのですが、他の「にし阿波」以外のパラスポーツの推進状況等について、もしあれば教えていただきたいと思います。

☆会長

それではダイバーシティ推進課、西部県民局の方から回答をお願いいたします。

◆事務局（ダイバーシティ推進課長）

パラスポーツについては、障がい者スポーツ交流支援事業等で行っております。具体的には、先ほど話があったノーマピックススポーツ大会の開催や、障がい者スポーツを側面から支援するというところで、徳島パラスポーツ人材バンクの運営でありますとか、障がい者ス

ポーツ指導員の育成などを実施しています。にし阿波の方でも結構盛んにやっておられて、私の方も一応メンバーに入ってやってるんですけども具体的なところは申し訳ございません、西部の方で答えいただけたらと思います。

◆事務局（西部県民局地域創生観光部課長）

にし阿波のパラスポーツということで、このパラスポーツの関係で平成31年2月に関係市町や、福祉団体、スポーツ支援団体等で構成する「にし阿波パラスポーツ推進協議会」というのを設置致しました。これを機に令和元年5月にはアクションプランを作成しております。いつ頃から始めたとのこととしては、協議会を設置した平成31年2月から活動しているということをお願いいたします。

☆会長

ありがとうございます。委員よろしいでしょうか。

○委員

はい、ありがとうございました。また他の地域もこんなふうになれば良いかなと思います。

☆会長

ありがとうございました。それでは次の委員さんお願いいたします。

○委員

私は、この4つの大きな柱の「元気なとくしま」というところでお話させていただきたいなと思います。実際、今年度の子ども体力向上事業でキッズのレクスポーツ事業をさせていただいて、年間通じてお子さんに体育館に集まっていたいただきいろんなスポーツ、ニュースポーツを楽しんでもらうという事業をやらせていただいています。

資料2の7ページや9ページの4年度の取組内容や5年度の取組予定というところに書かれている、低年齢期からの運動習慣の形成であったり、はつらつサポート事業においてスポーツインストラクターなどの外部指導者を積極的に活用して、運動の楽しさや喜びを味わわせるという内容になっているんですが、まさに楽しむということが前回もすごく皆さんキーワードになってたと思うんですけど、これがとても大事だなと思います。

プラス「楽しい」イコール「だから続けていける」というところで、ここにもう1つ加えていただきたいのは、大人になってもずっと継続していけるようなものを提案して、積極的に指導していただきたいということです。私も普段から仕事をしていて思う考えなんですけど、スポーツにはエリートスポーツの育成支援と、県民のスポーツレクを通じた健康

増進という2つの大きな柱があると思うんです。日頃から私は後者の方の仕事に携わっていて、特に成人とかご高齢の方を対象にしている介護予防的な仕事、運動指導させていただいてるんですけども、こういうことをしているといつも思うのが、若いうちからスポーツイコールフィットネスとか自分の健康のため、または自分の体づくりのためというところの位置づけ、意識付けですね、これがとても大事だと思うんです。やっぱり子供って体育を通して競技的なスポーツをしていると、運動神経がいいとか悪いとか、運動が苦手とかそういうもので体育に苦手意識ができたというのがあったりするんじゃないかなと思うんです。学校での運動の習慣付けというのがとても大事だと思っているので、そういった競技スポーツだけではなくて、小さい頃からフィットネスとか、エクササイズ的、もしくはレクリエーションなんかを通して楽しめる、勝敗に関係なくスポーツを純粋に楽しめるような教育が若いうちから大事なんじゃないかなと常に思っています。

最近では、スマートウォッチやアプリを使って大人でも健康管理をしたりということが増えてきているので、若いうちから学生にもそういったものを使って、例えば1日の消費カロリーであったり、睡眠時間であったり、食事であったり、運動を通して自分の健康管理ですね、ゲーム要素を持ちながら、そういったものを自分で管理するというのを身につける習慣作りをしたらどうかなと思っています。全国に先駆けて徳島県がぜひこういうモデル事業をしていただいて、スマートウォッチを皆さんにお渡しするとなると結構予算が必要になったりしますので、企業とタイアップしたりとか、そういうことも含めて楽しく健康づくり、自分の身体を考える授業なんかでもできたらすごくいいんじゃないかな。そうすると、切れ目のない運動習慣作りができるんじゃないかなと思います。やっぱり部活が終わって働き盛りとか、子育て世代となるとどうしても運動しない時期が出てきて、気が付いたら検診で数値が高くなっていたり、どこかが痛くなって慌ててまた運動するというようなパターンが多いので、ぜひ若いうちから自分の健康管理ができるような、そういうものが学校教育の時代から少しずつ取り入れられるような運動習慣作り、運動習慣の形成を考えていただければと思います。

☆会長

回答は必要ですか。

○委員

また、そういったものを検討していただければと思います。先程の5年度の取組の中に、スポーツインストラクターなどの外部指導を積極的に活用とあるので、こういうところもどういったものかということも含めて、今後につながるよう検討していただければと思います。

◆事務局（体育健康安全課班長）

まずインストラクター派遣の事業でございますが、本課の「体力向上スマイルアップ事業」の中で「はつらつサポート」というものをしております。本年もインストラクターを小学校34校に派遣させていただきまして、特に体力向上モデル校というところも指定させていただきまして、運動の楽しさを分かっていただくような指導、それからその子供たちの指導だけではなくて、先生方にもその指導風景を見ていただいて継続した取組にさせていただいているというものがございます。

それから、ICT端末を使つての取組といたしまして、資料2の9ページに令和5年度の取組予定とありますが、これはもうすでにやっていますのですが、同じく「体力向上スマイルアップ事業」の中に「徳島チャレンジプログラム」というものがございまして、毎年体力調査をやっているんですけども、昨年度からは体力アップ記録シートをデータで配布させていただきまして、毎年やっている体力調査を児童がタブレットに入れていくと、そういうものを通して自分の体力を知ったりとか、小学校から中学校また高校につながるような取組をしていただけるようにしているという状況です。

○委員

そうですね。ぜひこういったものを継続できる、ずっと続けていけるようなシステムづくり、習慣づくりっていうのが今後大事になってくると思いますので、ぜひ続けて、最終どのくらい成果があるのかという所も含めて注目していきたいと思います。ありがとうございました。

☆会長

ありがとうございました。他にどうでしょうか。

○委員

御無沙汰しております。先ほどの委員さんの御意見、素晴らしいかと思ひます。スマートウォッチなんかを導入というのも現実的には難しいと思ひますけど、ランニングではアプリなんかがあるんですね。そういったアプリっていうのは、今現在、徳島県であったりしますか。

◆事務局（体育健康安全課班長）

教育委員会のほうでは、そういったアプリはありません。

○委員

それでしたらそういったものを作って、ゲーム感覚で先ほど委員さんもおっしゃった

ようなことをしていてもいいかなというふうに思います。あとはまたマラソンの例えになるんですけども、MGCという基準を分かりやすくした選考会があり、その中で賞金制度を持っています。その時にすごく男子マラソンで成果が出たので、「人参ぶら下げ」じゃないですけど、そういったこともある意味考えてもいいのかなというふうに思っています。アスリート寄りの考えになるんですけども、成果を出した選手達には報酬というのももう少しあっていいのかなというふうに思っています。

☆会長

ありがとうございました。他の委員さんはどうでしょうか。

○委員

素晴らしい基本計画を立てられたというふうに思っています。国の政策と同じようにスポーツのいろんな政策がいろんな部局に広がっていく中で、これをどうまとめていくか非常に難しい仕事だったんじゃないかと思います。

やはりこういうふうに分担してやるというのは非常にいいんですけども、例えば運動部活動の改革の問題もあるんですが、そういうものに対して、それぞれの部局が事業を持つというよりは部局同士で連携をとる必要があります。市町村における運動部活動、今は地域移行ですか名前変わりましたが、こういうことを進めようとする、やはり現場の中ではそれぞれやってきた事業をどういうふうに組み合わせてやるかという話になってきます。現場でそれを動かすためには、県レベルではどういう役割があるのか、それに合わせてそれぞれの部局と共通した問題を共有して、方向性を定めた上で支援していくのか、それぞれの役割があるんじゃないかと思っています。そういう意味で今回の運動部の移行の問題は非常に大きなことで、地域のスポーツがかなり大きく変わるんじゃないかと危惧をしております。

特に中学生の運動部が地域に移行すると、多分スポーツ実施率がかなり落ちるというふうに予測しております。ということは、それ以上に何かこう生み出す力を持たなければいけないということです。特に中学生の体力低下の問題では、結構中学校の方が手薄になっていて、そちらはどういうふうに支援するのかっていうのがなかなか方針はまだ出てないんですが、この機会にやはりそういった環境整備をするということで、他分野の方々が例えば学校教育、それから地域スポーツ、教育委員会、大学とかそういった支援機構、あるいは企業の方々ですね、スポーツに関する企業の方々も含めて、その地域のために子どもたちにどういうふうな関係を設定できるかということをお話し合う場を持たなくちゃいけないわけです。そういった面では当然市町村の方が非常に大変だと思うんですが、それを支援できる体制づくりをしていただければと思います。

◆事務局（体育健康安全課班長）

先ほど委員さんから質問がありましたアプリ等のことなのですが、資料2の10ページでございませう。先ほど無いということをお願いしてしまつたのですが、小学校段階でこのICTランキングシステムというものを作成してございまして、色んな種目、ジグザグドリブルであるとか、長縄みんなでジャンプであるとか、そういう種目にチームを組んで取り組みまして、登録してございませう。その取組で、参加数や行った内容に基づきポイントが加算されることによつて教育委員会では評価をしてございませうというようないシステムを構築してございませう。

それから中学校における休日の部活動について、現在地域移行ということをお願いしてございませうが、徳島県では昨年12月にスポーツ庁及び文化庁が改定しました学校部活動およびチームクラブ活動のあり方に関する総合的なガイドラインよりまして、令和5年度から令和7年度の3年間を改革推進期間としてございませう。その中で徳島県におきましては、地域移行推進協議会を立ち上げ、来年度につきましては国の委託事業を活用した実証事業として市町村が行う活動に対して連携しながらその取組を支援をしてございませうという状況でございませう。

◆事務局（未来創生文化部次長）

先ほど委員がおっしゃられましたように、この部活動改革といひませうものは、今教育委員会を中心にやってございませうけれども、やはりいろいろな方々との連携それから専門家のサポートといったものが大変重要となつてくると思ひませう。私もスポーツ振興課としても、大きな役割を担つてございませうと認識してございませう。今後、いろいろな課題を教育委員会の方からお伺ひをいたしまして、よりよい地域スポーツの形といひませうか、そういうふうなものに展開できるようにしてまいりたいと思ひませう。皆様方も御協力、御支援よろしくお願ひいたします。

◆事務局（スポーツ振興課長）

先ほど委員の方から、MGCの賞金制度を例として、成果を出した選手への報酬というようないお話がありました。少し性格は違ひませうかもしれないんですけど、徳島県ではオリンピックへの選手の輩出でありますとか、国体の順位向上に向けて、競技力向上の強化対策を様々やってございませう。その中でオリンピック出場、もしくは国民体育大会・全国大会での活躍が期待される本県関係選手の活動に対して必要な経費の補助を行つてございませう制度がございませう。日本代表としての国際大会への出場でありますとか、全国大会での3位までの入賞実績であるとか、入賞実績等々を加味しまして、前年の成績を元にランク分けをし、次年度の個人への給付助成補助を行ひまして、より一層の競技力向上してございませうというものでございませう。本県としては国体30位台という大きな目標を引き継いで継続してやってございませうと思ひませうので、それに向けての一助となるようにそういう制度も設けてやってございませうところではございませう。

○委員

もう1つお話ししたいと思うんですけど、徳島県せっかく素晴らしい施設がたくさんあるので、そこにいろんな各スポーツで活躍されてるトップアスリートを呼び込んで、例えばとくしまマラソンだったら今年大迫選手が来るんですけども、そういったいろんな競技ごとに集めて月ごとにいろんな競技を選択できるとか、そういった、ここに行けばこのスポーツが今月できるとか、子ども達に選択肢を与える場があってもいいのかなというふうに思いました。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ありがとうございます。なかなか毎月オリンピック選手を招いてというのは難しいところがあるんですが、「目指せオリンピック夢はぐくみ事業」といって予算額100万円の事業ではあるんですけど、オリンピック選手を招いて、子ども達と触れ合っていて将来オリンピックを目指してもらおう、というような事業も行っております。昨年度でありましたら大塚製薬の走り幅跳びの津波選手や、マラソンの前田穂南選手等々にポカリスエットスタジアムの方に来ていただきました。今年度でありましたらマラソンの大迫選手も、とくしまマラソンに来ていただいた機会にそういう事業も一緒にやっていきたいと思っていますし、他には陸上・短距離の桐生祥秀選手にも来ていただいて、子ども達と触れ合っていていただいたこともありますし、サッカーの元日本代表の塩谷選手にも来ていただいたところです。できるだけそういう機会を持って子ども達と触れ合っていて、将来のオリンピック選手が1人でも輩出できるように、県としても支援をしていきたいと考えております。

☆会長

ありがとうございました。それでは各委員の皆様から貴重な御意見をたくさんいただいたんですけれども、本日の会議の報告を持ちまして、現行計画についての進捗状況の確認については最後になります。先ほど御説明いただきました、次回のこの会議からは、第3期の計画の内容について確認していくということになりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは最後の議事「その他」についてですけれども、事務局から御説明をお願いします。

◆事務局

令和5年度のスケジュールについて説明

閉会